



大学生と薬物乱用 ～大麻について～



博士前期課程2年
地域看護学専攻 砂川昌子

「早稲田よお前もか・・・早大生ら5人逮捕 大麻汚染広がる」 2008.11.15（産経ニュース）

- 厚生労働省関東信越厚生局麻薬取締部が自宅マンションで大麻を栽培していた早稲田大学3年の男子学生を大麻取締法違反（栽培）の現行犯で逮捕していたことが15日、分かった。
また、オランダから大麻を密輸しようとした別の早大生2人と東京理科大の学生1人が千葉県警などに逮捕されていたことも同日判明。
10月以降、慶応大学や法政大学の学生による大麻事件が相次いで明らかになっており、学生の間での大麻汚染は広がりを見せている。

大麻って何

?



大学生が大
本

大麻 (mar i juana) とは?

学名: Cannabis sativa L
(カンナビス・サティバ・エル)



産

中央ア

クワ

科の一年草

大麻 (mar i juana) とは?



乾燥大麻

大麻樹脂

薬物乱用防止ドラッグについてきちんと話そう
青少年の薬物問題を考える会弁護士 小森 榮

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~skomori/seed/seed1.html>

大麻の成分

THC (デルタ-9-テトラヒドロ
カンナビール)

主な中枢神経系への効果

- 多幸福感
- 眠気
- 短期記憶の障害
- 離人感
- 精神作業能力の低下
- 知覚過敏
- 知覚変容
- 時間感覚の遅延

など

宮里勝政：「薬物依存」、岩波新

書、1999

大麻の精神依存

- ・ 個人差が大きい(中等度～高度)

繰り返し使用した後中止すると・

- ・

焦燥感、不穏、神経過敏、
食欲減退、不眠



薬物乱用・薬物依存・薬物中毒の関係

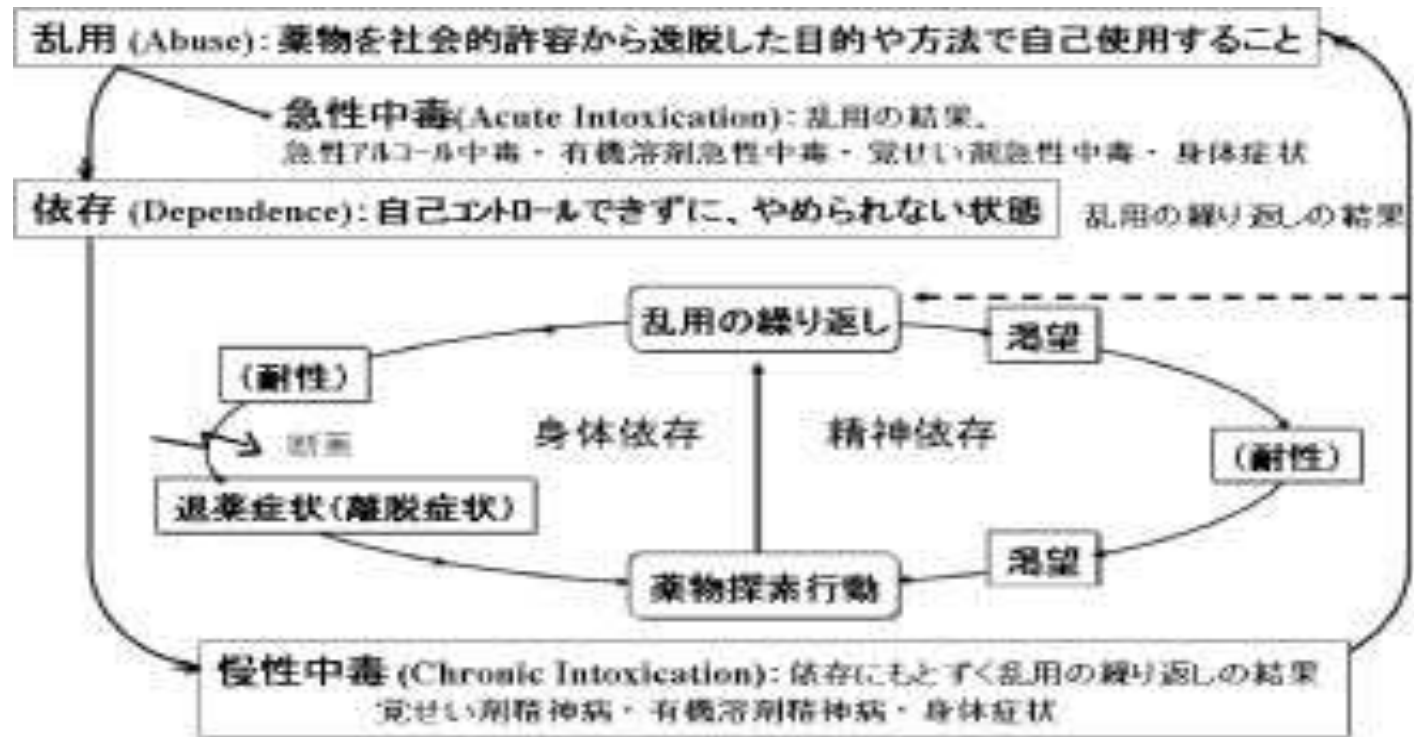
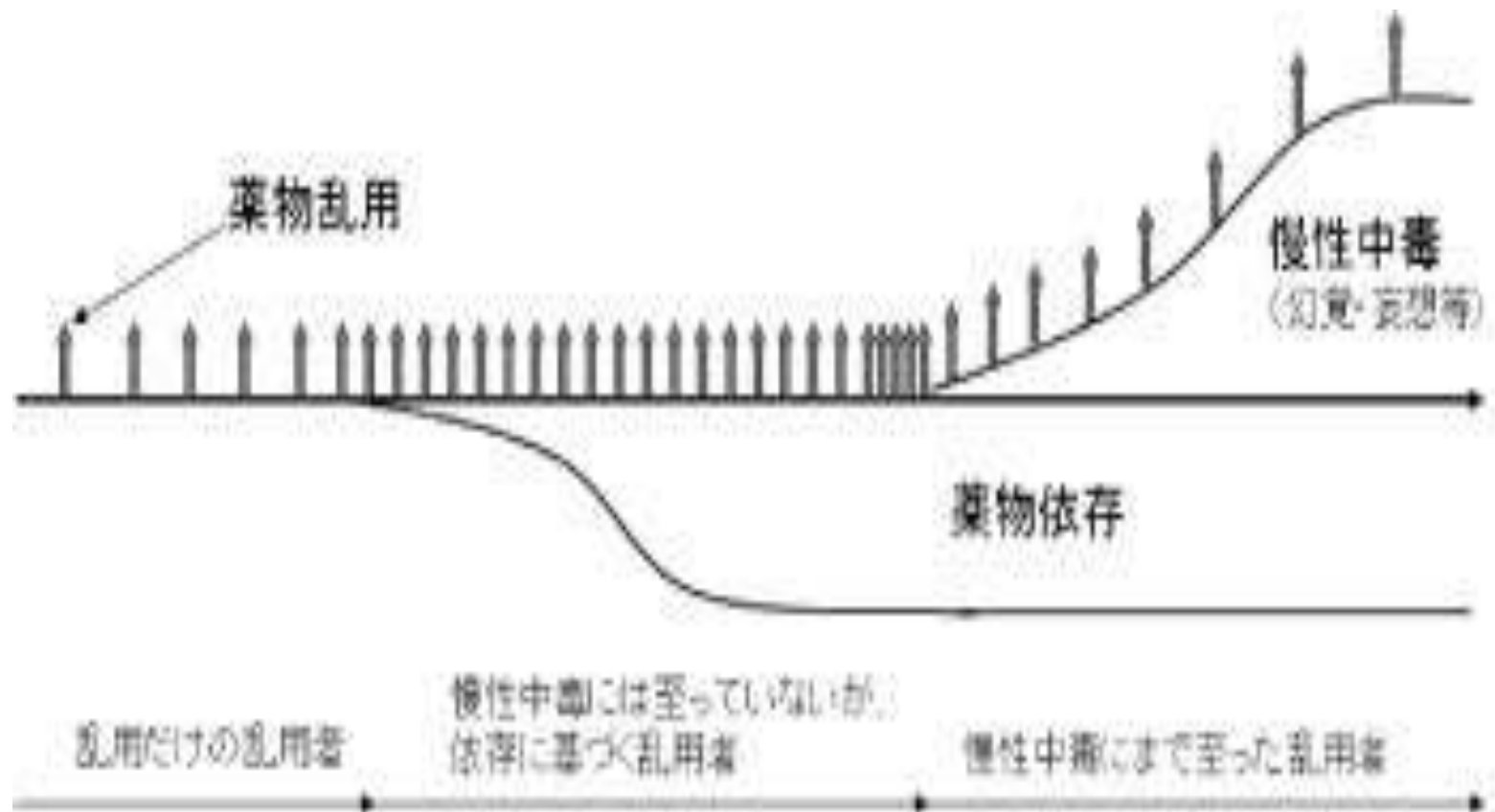


図1 依存性薬物使用の最大の怖さは、依存形成にある

薬物乱用・薬物依存・薬物中毒の時間的関係



大麻取締法

- 第1条

第一条 この法律で「大麻」とは、大麻草（カンナビス・サティバ・エル）及びその製品をいう。ただし、大麻草の成熟した茎及びその製品（樹脂を除く。）並びに大麻草の種子及びその製品を除く。

大麻犯罪の罰則

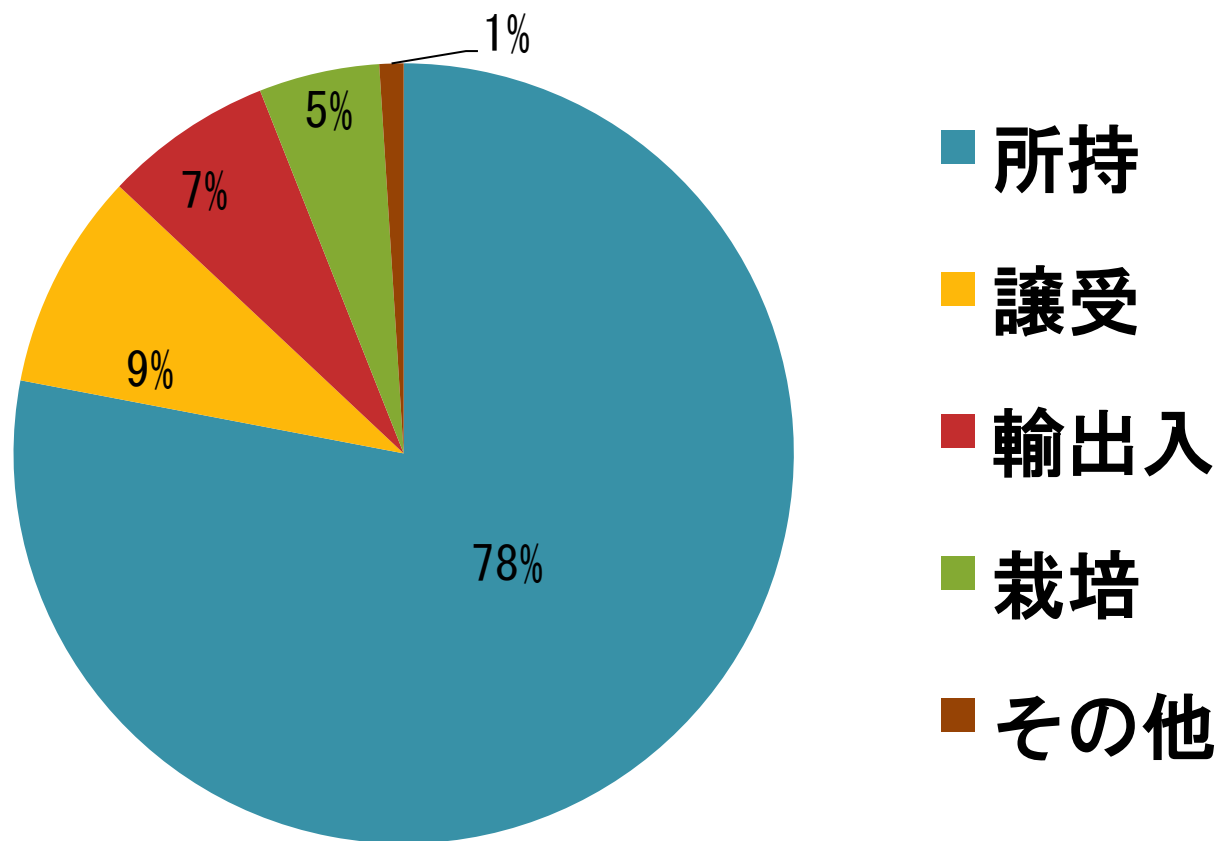
栽培、輸出、輸入

・ ・ ・ 7年以下の懲役

所持、譲渡・譲受

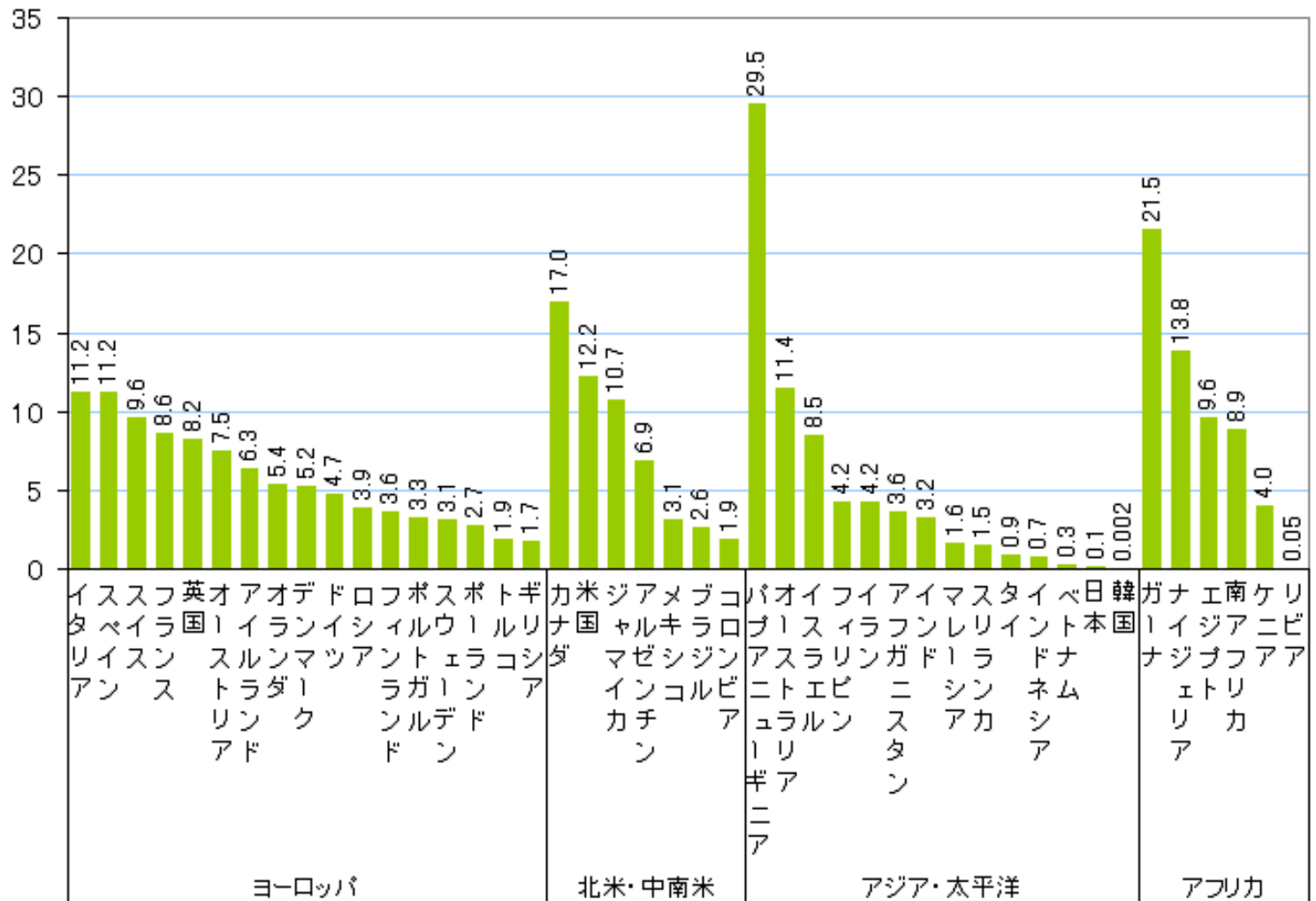
・ ・ ・ 5年以下の懲役

大麻取締法による乱用者の取り締まり



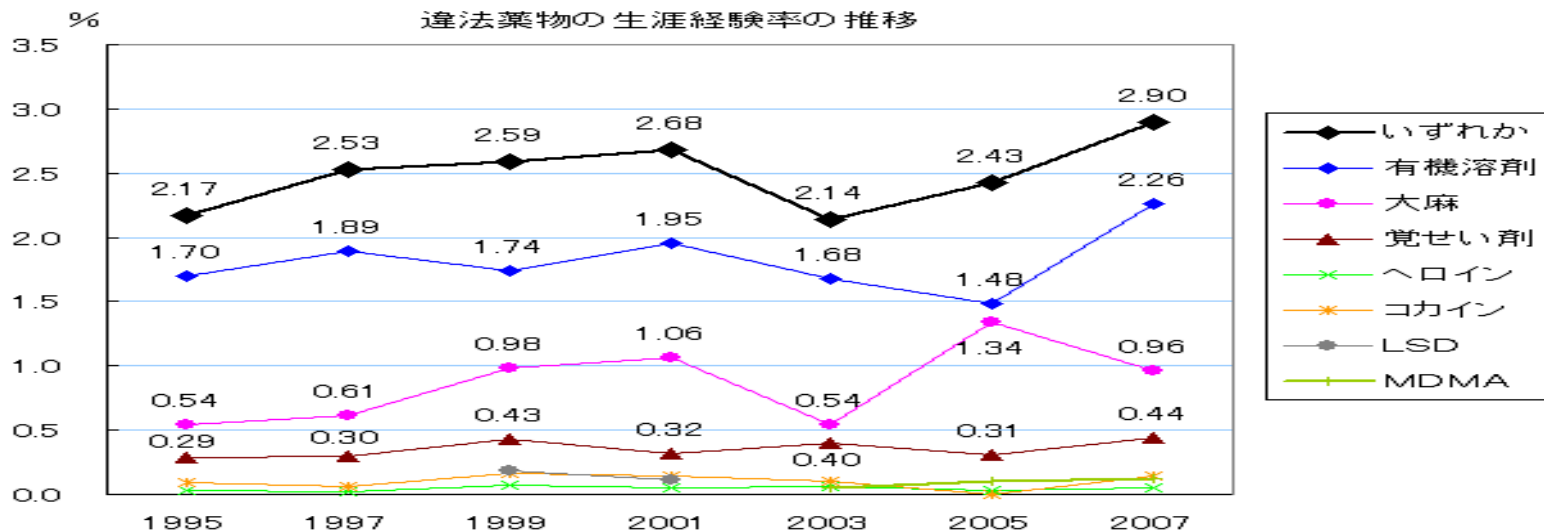
大麻汚染率の国際比較

年間に大麻を乱用した人口の比率(%)



(注) 年次は1994～2007年。対象年齢は15～64歳が主だが、国によって異なる。英国はイングランド・ウェールズ。
 (資料) UNODC (国連麻薬・犯罪局), World Drug Report 2008

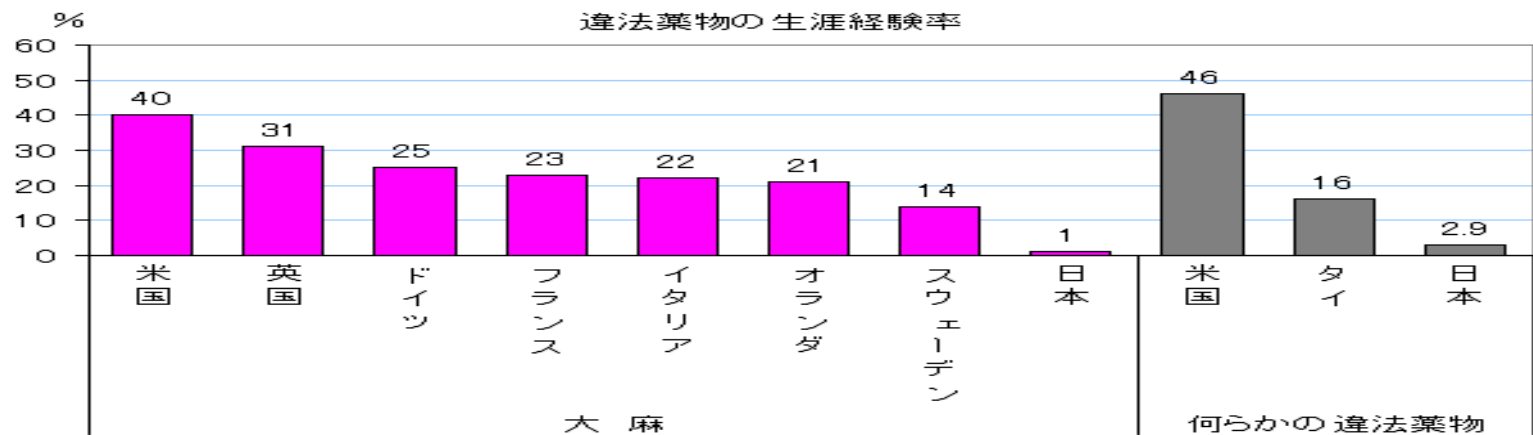
薬物乱用の動向



(注) 全国の15歳以上が対象。男女、年齢別に地区ごとに補正した値。生涯経験率とはこれまでに1回でも乱用したことがある者の率(違法薬物の使用を乱用という)。有機溶剤(シンナー、トルエン)、大麻(マリファナ、ハシッシ)、覚せい剤(ヒロポン、シャブ、エス、スピード)、コカイン(クラック)、MDMA(エクスタシー、エックス)。カッコ内は別名の例。

(資料) 国立精神・神経センター精神保健研究所「薬物使用に関する全国調査」

薬物乱用の国際比較



(注) 国ごとに調査対象としている薬物の種類に違いがあるため単純比較は出来ない。各国の調査対象年齢、年次は以下の通り。米国(12歳以上、2004年)、英国(イングランドとウェールズ、16~59歳、2003~04年)、ドイツ(18~59歳、2003年)、フランス(15~75歳、2000年)、イタリア(14~44歳、2001年)、オランダ(15~64歳、2001年)、スウェーデン(18~64歳、2004年)、日本(15歳以上、2007年)、タイ(12~65歳、2001年)。2005年調査の報告書による。

(資料) 国立精神・神経センター精神保健研究所「薬物使用に関する全国調査」

「大麻合法化」について①

- WHO（世界保健機関）

全世界で年間、**約1億4,700万人**が
大麻を使用（世界総人口の**2.5%**）

横浜市衛生研

究所HPより



大麻使用の広がりを背景に、大麻
の使用者に対して刑罰を科すこと
に適否が議論

「大麻合法化」について②

◎ 非刑罰化(ダイバージョン)論

犯罪者の社会復帰を促進することで
犯罪者を減らそうとする考え方

◎ 大麻容認論

害が少なく、医療用途など有用な点
もあるから、処罰の対象から外すべき
だとする主張

「大麻合法化」について③

◎害悪削減（ハームリダクション）論

薬物乱用の根絶を目指すのではなく薬物使用はある程度やむを得ない現象とみなし、より安全な薬物の使い方を指導するもの。

自己使用目的の少量の薬物所持を処罰の対象から外し、トリートメントを受けさせることもモデルに含まれる

オランダの薬物政策①

[特徴]

ハームリダクション

薬物使用者と使用者に関わる人たちに対する被害を制約しながら、薬物の使用を予防する

[主要な目的]

薬物の需要と供給の両方を削減し、薬物使用者、関係し、そして一般大衆に対する害を最小に食い止めること

ドラッグは合法ではない!

オランダの薬物政策② (大麻)

コーヒーショップが1人につき5g/日未満を販売することは訴追されない。

個人的な使用での大麻栽培は大麻草5株未満、個人的な使用のための大麻所持は30g未満

日本の大麻事犯の特徴

- **初犯率が80%以上と非常に高いこと**
- **30歳未満の検挙人員の割合が60%以上と非常に高いこと**

最近の傾向



- インターネット等を利用して大麻の種子を入手し、その種子を発芽させて大麻を栽培
- 「レイブ」と称する野外音楽パーティ等、若者が集まる機会を利用して、集団で大麻を吸引

大学生の薬物事犯の検挙状況

- 薬物事犯に占める大学生の割合

平成20年117人(0.8%)

[全薬物検挙人員 14,326人]

大麻事犯 平成20年89人(全体の3.2%)

(参考 : 覚せい剤事犯 18人)

[大麻検挙人員 2,778人]

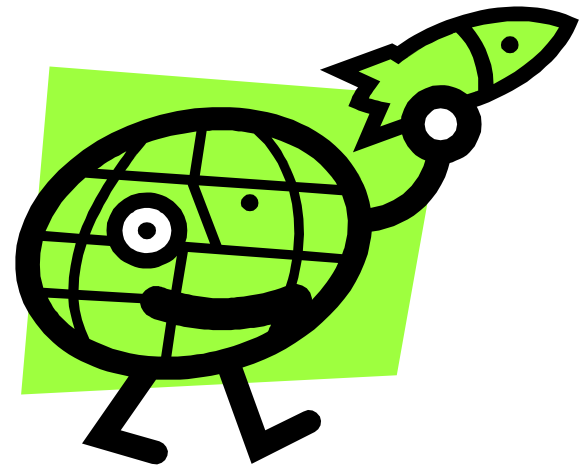
大学生大麻事犯の供述内容①

1) 動機

- 薬物に興味があった
- 友人から誘われ断れなかった
- 海外で簡単に使用できやめられなくなった

2) 使用場所

- 自宅
- 友人宅
- **大学構内**



大学生大麻事犯の供述内容②

3) 購入先など

- 友人から
- 売人から
- インターネットで注文

4) 購入場所

- 路上
- 大学構内
- 繁華街の飲食店内



大学構内での売買及び使用理由

- 警察に捕まる心配がなく安全
- 吸引していても周りが全く関心を示さない

インターネットと薬物乱用

薬物の違法取引には**携帯電話**が一般的に利用されている。

インターネットを使った薬物犯罪も増加

インターネットを利用した薬物取引①

① パソコンを使いこなす10代後半から20代後半の若者が多いこと

② 取引に関与する者は、**学生**、会社員、公務員など、素人が多いこと

③ 地理的、時間的制約がないため取引が広範囲化し、全国に顧客がいること

インターネットを利用した薬物取引②

- ④ 多種少量の薬物が取引され、薬物の物々交換もあること
- ⑤ 監視・取締を免れるため、数日ないし数週間で消えるサイトも多いこと
- ⑥ 取引だけでなく乱用体験談や製造法まで薬物に関する様々な情報が流されているサイトも多いこと

薬物乱用の低年齢化の背景

1) 薬物への抵抗感、警戒心が希薄になっていること

①薬物乱用の有害性や危険性に関する認識の欠如

例) 「ダイエット効果がある」「一度ぐらいなら問題ない」

②違法取引では俗称が使われているため、抵抗感や警戒心が弱い

例) 大麻の俗称・・・ハッパ、クサ、ジョイント、チョコ、ガンジャ、ハシシュ、マリファナ

2) 薬物が容易に入手可能であること

大麻等の違法薬物についての意識調査（早稲田大学）①

2008年12月10日 ～ 2009年1月21日

Waseda-netポータルによるWeb調査を
全学生に対して実施（回答8.8%）

回答した学生の9.9%が

「**周囲に大麻など違法薬物の所持者や使用者が
いる**」と回答

大麻等の違法薬物についての意識調査(早稲田大学)②

- 薬物の入手可能性については、回答者の 17.3%が「簡単に手に入る」、36.3%が「なんとか手に入る」と回答
- 「早稲田ウィークリー」(2009.3.18号外)
- http://www.waseda.jp/student/weekly/info/weekly_gougai.pdf

文部科学省・厚生労働省・警察庁が
大学生等を対象とした薬物乱用防止
のための啓発用パンフレットを作成

「薬物のない学生生活のために～薬物
の危険は意外なほど身近に迫っていま
す～」

- http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/03/1258059.htm

質 問

大学での薬物教育は必要？

大学生への効果的
な薬物教育は？



ご清聴ありがとうございました



参考文献



- ・ 水谷修 編:薬物乱用防止教育 その実際とあるべき姿、東山書房、2005
- ・ 宮里勝政:薬物依存、岩波新書、1999
- ・ 深見埴:こどものためのドラッグ大全、理論社、2005
- ・ 和田清:薬物乱用・依存の現状と鍵概念、こころの科学、111、14-21、2003
- ・ 山本順二:インターネットと薬物乱用、こころの科学、111、67-72、2003
- ・ 藤原道弘:大麻はなぜ悪いのか、大学時報、32-39、2009
- ・ 小野田博通:わが国の薬物事犯の現状-大学生薬物事犯を中心に、大学時報、46-51、2009
- ・ 小森榮:大麻取締法と薬物乱用、2007
- ・ 「大麻について教えるために」
<http://www2u.biglobe.ne.jp/~skomori/teens/teacher2.html>
- ・ 「オランダの薬物政策Q&A2003」
<http://www2u.biglobe.ne.jp/~skomori/sov/policy2003.html>
- ・ 「大麻について」横浜市衛生研究所
http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/health_inf/info/marijuana.html
- ・ 「薬物のない学生生活のために～薬物の危険は意外なほど身近にせまっています～」文部科学省・厚生労働省・警察庁パンフレット
- ・ WASEDA WEEKLY 2009. 3. 18号外 調査結果報告「大麻等の違法薬物についての意識調査」